



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.2.9 No. 3942

2/7 申12号
交渉

千葉
支社は

鉄道の使命を放棄するのか!

二月七日、千葉支社において幕張支部代表も出席し、申第一二号(年度末合理化に関する要求)に関する、二回目の交渉が開催された。今回の交渉は、主に幕張電車区に関する交渉となった。

年度末合理化

絶対阻止!

この間の組合の基本要請は、年度末合理化の撤回である。(運転関係では、幕張電車区II▲7(仕業検査▲6、士職▲1。)津田沼電車区II▲13(誘導▲13、士職▲2、仕業+2。)(「日刊3918、3925」参照。)今回の交渉も基本的に要求に踏まえ行なわれた。

組合 この間、現場では、天災などによって列車が乱れた場合、仕業検査は睡眠時間を削り、入れ換え業務や臨検対応を行なっていることは認識しているのか?
当局 現場で苦労していることは認識している。
組合 現行の仕業の泊勤務は検査長1名、検査二組の4名と1名の計8名であるのに前記の実態である。今次提案では、検査長1名、仕業二組4名の計5名となってしまう。これでは異常時の対応がもつと厳しくなるというこ

動労千葉申第12号(申入書)に対する回答及び見解 (抜粋)

4 「年度末諸施策」について、幕張電車区及び習志野電車区構内の作業ダイヤを早急に提示すること。

現在精査中であり、精査でき次第、関係社員に周知徹底することになる。

5 習志野電車区について、誘導担当が廃止された場合、ポイント給油及び凍結防止対策は誰が行うのか明らかにされたい。

ポイント給油の作業については、構内運転担当者、仕業検査班が担当し、作業ダイヤにより指定することになる。

また、凍結防止対策は異常時扱いと同様に、区総体で対応することになる。

6 幕張電車区について、次の点を明らかにされたい。

(1) バンタグラフすり板自動計測装置の導入について、

① 仕業検査詰所に設置されるパソコンに、バンタグラフすり板の磨耗がモニターされた場合、誰が確認し、何処に交換の作業指示を行うのか、作業の流れと責任体制を明らかにされたい。

基本的には仕業検査班が確認することになる。

なお、異常等が生じた場合は、臨時検査として対応することになる。

② 計測値を何ミリに設定するのか明らかにされたい。

バンタグラフすり板の取替え限度は2ミリであるが、それを上回る計測値を設定し、実施していく考えである。

③ 現在は、仕業検査において、バンタグラフ本体、冷房カバー、発煙筒カバー、ベンチレーター等の屋根上機器についての点検・検査も行っているが、自動計測装置の導入に伴って、これらの機器の点検・検査についてどのように考えているのか明らかにされたい。

現在、仕業検査において、バンタグラフ本体、避雷器及び無線のアンテナ取付け状態を確認しているところであるが、今後、屋根上機器の点検については、故障実態を勘案し交番検査時の点検で対応することになる。

④ 前回団交時に、積雪時は、自動計測が不可能であるとの回答がなされたが、積雪時のバンタグラフすり板検査の考え方について明らかにされたい。

積雪時において、計測不能の場合については、次回の計測で対応することとなる。

(2) 仕業検査及び外勤の要員削減について、仕業検査及び、入出区・入れ換え作業の発生件数等、削減の具体的な根拠を明らかにされたい。

作業実態を考慮し見直しを図ったものであり、提案内容で対応可能であると考えている。

(3) 仕業検査及び外勤について、夜間の作業体制が手薄になるが、夜間に臨時検査や車両故障による編成変え等が発生した場合の対応方についてどのように考えているのか、明らかにされたい。

臨時作業については、状況によって異なるが、作業ダイヤの変更等により対応することとなる。

とではないか。

当局 快速仕業等を昼間帯に移行するなどして余裕を持った作業ダイヤを設定しているのので、充分対応可能である。

組合 異常時でも列車をスムーズに動かすのが公共輸送に携わる鉄道会社の使命ではないのか。列車が止まっても良しとする体制は、使命の放棄である。

当局 (前項の繰り返し)

という組合基本要請から大きくかけ離れた対応に終始した。また、基本要請として「構内・車両検修体制今後の在り方、将来展望についての考え方を明らかに」することを求め、今次合理化の根

拠について求めたことに対し、当局は一切の回答をしないばかりか、今次合理化に伴う幕張・津田沼両電車区の作業ダイヤを早急に提示するよう求めたことに対し、幕張の仕業・士職に関するつけ焼刃的な業務変更表を提示するのみであり、未だ検討中という不誠実な対応に終始した。

われわれは、検修職場の解体と鉄道会社の使命を放棄する年度末合理化には絶対反対である。

二月一六日の定期委員会において充分な討論を尽くし、第二の分割・民営化JR一〇万人首切り阻止の反撃体制を構築しよう!

申し回定期
委員会へ
二月十六日
十三時より
具瀬光物産
センター
結集しよう